

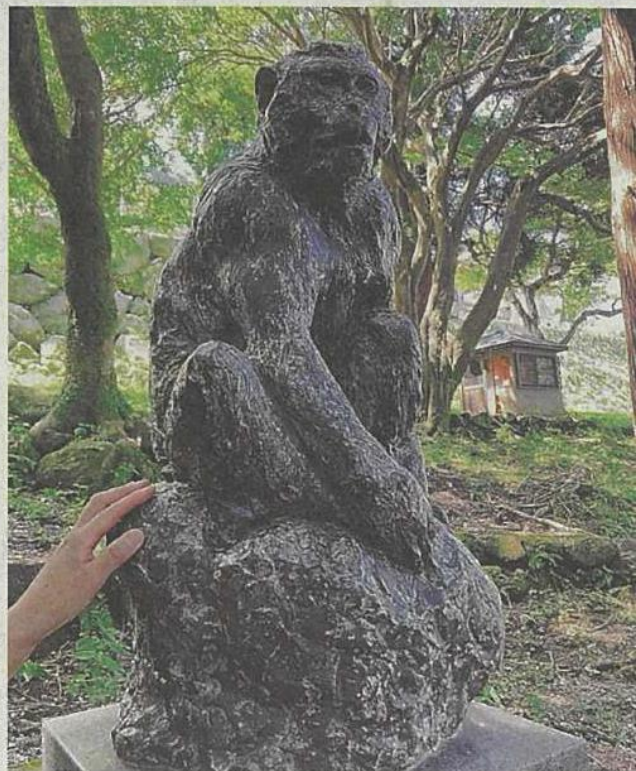
高崎山
写真
ヒストリー
自然動物園70年

高崎山のニホンザルたちは基本的に群れで生活・行動しており、園の「サル寄せ場」にも大抵は群れで訪れている。今はB群(640頭)とC群(337頭)が姿を見せるが、1953年3月に開園した当初はひと群れ(A群)しかなく頭数も250頭だった。その後、A群は数を増やし59年8月に分裂、B群が誕生した。64年3月にA群は再度分裂してC群が誕生した。C群誕生後は三つの群れがサル寄せ場に来ていたが、A群は2002年6月1日を最後に寄せ場に姿を現さなくなり、今に至っている。

像になった初代ボスザル



「A群初代ボス、ジュピター」の写真(上、高崎山管理センター提供)は1959年の撮影。ジュピターは開園前



の52年11月から61年1月まで、A群のボスとして君臨した。「精悍(せいけん)きわまりなかった」「鋼鉄(こうてつ)のバネ入りのような四肢(し)だった」「頭がよく、ずる賢い面もあった」などと伝えられている。

「園内にあるジュピターの像」の写真(下)は今年8月の撮影。像は大分市が62年に建立した。豊後大野市出身

で日本の近代彫刻をけん引した彫刻家朝倉文夫(18

83~1964)が市の依頼を受けて、この像を手がけた。当時の大分市長だった上田保氏(故人)は建立理由について「リーダーとして君臨し、よく部下を統率して園発展に寄与していたが、惜しくも昭和36(61)年1月18日に病死した。その功績を永く記念するため」と説明している。

(原則、第2、第4日曜日に掲載します)